

科目名	臨床看護概論Ⅳ (医療安全)					DP1、DP2 DP4、DP5	看護高等課程
学年	1年	分野	専門 基礎看護 臨床看護概論	時間数	15時間	担当 教員	外部講師
科目 概要	医療現場は、医療の高度化、高齢化、重症化、在院日数の短縮などに伴い、危険いっぱいの職場であり安全確保は容易ではない。患者だけではなく、自分自身の看護職としての身分を守るためにも、リスク感性を高め、重大な危険や兆候を見逃すことなく、安全な看護を提供することは重大な課題である。医療における危険要因を知り、安全な看護を提供するためのリスク感性を高める医療安全教育を展開する。						
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 危険と判断できるための知識が、実際に使える形で身につけていることが、リスク感性向上の必須条件であることがわかる。</li> <li>2. 「異常に気がつく」「発見する」「変とを感じる」といったリスク感性を育てることの重要性に気づく。</li> <li>3. 医療現場は安全ではない。危険いっぱいの職場であることを自覚する。</li> <li>4. 医療安全に必要なコミュニケーションを学ぶ。(不十分な情報伝達事故)</li> </ol>						
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員
1~3	医療安全管理の重要性	医療安全を学ぶ意義 リスク感性を育て、磨くことの意義 医療安全に対する国の取り組み 事故事例				講義 演習	外部講師
4~7	リスク感性育成 (KYT)  人間の特性と報告・情報 伝達エラー	感性を育て、安全な医療に「気づく、感じる」ことができる医療者の育成の為に KYT (危険予知訓練) を体験しリスク感性を高める  医療安全に必要なコミュニケーションとコミュニケーションによる不具合の事例を基に正しく伝える訓練をする インシデント・アクシデント報告書の必要性と記入例				講義 演習	外部講師
8	試験	(1時間)				試験	
評価 基準	100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。						
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、課題・筆記試験などで総合的に評価する。						
教科書	新看護学 5 基礎看護 [1] 看護概論 医学書院 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							